

医薬品医療機器総合機構 理事長  
藤原康弘 先生

2024年6月11日

## 大麻はシスプラチン耐性を誘発する

拝啓 藤原先生

ご無沙汰しております。本日は現在 GW Pharma が開発中のカンナビノイド医薬品 Epidiolex（開発番号 GWP42003-P 一般名 cannabidiol）に関して懸念される情報に接したのでお手紙した次第です。メールでなく手紙にしたのは、膨大なメールを抱えていらっしゃる中、手紙の方が確実で見落とされにくい、さらに、お忙しい中ざっと御覧戴いて当該部署に回すのは紙の方が確実ではないかと思ったからです。

同封しましたのは、いずれも *in vitro* のレベルですが、Epidiolex とは効能効果が全く異なるとはいえる、シスプラチンを処方されている・これから処方される患者数は膨大です。Epidiolex を常用している患者が癌にならない保証はどこにもありません。それなのに、欧州でも米国でも同薬のラベルにはシスプラチンの「シ」の字もありません。逆も同様です。恐らく見逃しでしょう。

こんなことに気づいたのは、たまたま、現在関わっている医療事故訴訟がとんでもない症例だったからです。ステージ Ib のセミノーマ（20代前半）で、型通り精巣高位結紮摘出術を行い、念のため BEP 療法まで行ったにも拘わらず（もちろん生まれて初めてのシスプラチン投与です），そのわずか 7ヶ月後に、傍大動脈、縦隔、頸部、両肺、骨髄にまで及ぶ全身転移に至り、全経過 1 年半で死亡しました。

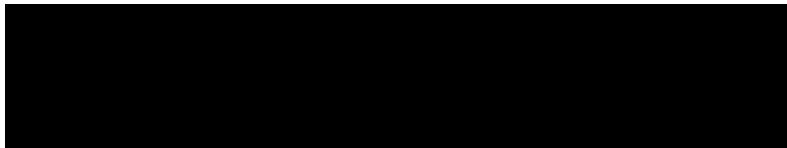
なぜ、生まれて初めてのシスプラチン投与の 7 ヶ月後にこんなことになったのか、まさかと思って調べたのが、既往歴記載の大麻（15-19 歳まで吸引歴あり）でした。

現在開発中の我が国でも、除外基準にシスプラチン処方は含まれていないのでは、と懸念していますが、Epidiolex が未だ申請されていないので、この手紙を何処に送ればいいのかわからず、不謹を承知の上でお送りしました。お手数をかけてもうしわけありませんが、よろしく御差配の程、お願ひ申し上げます。

とんでもない勘違い＆杞憂であることを願いつつ。

敬具

池田正行





## 【返信】 大麻はシスプラチン耐性を誘発する

1 件のメッセージ

藤原 康弘(Yasuhiro FUJIWARA) <[REDACTED]>

2024年7月12日 15:14

[REDACTED]  
池田先生:

おひさしぶりです。

6月は、3週間、海外出張の嵐をこなしておりまして

先生からの手紙へのレス遅れました。

スミマセン。

頂いた論文、しっかり意識しておき、

安全部門にも情報提供しておきます。

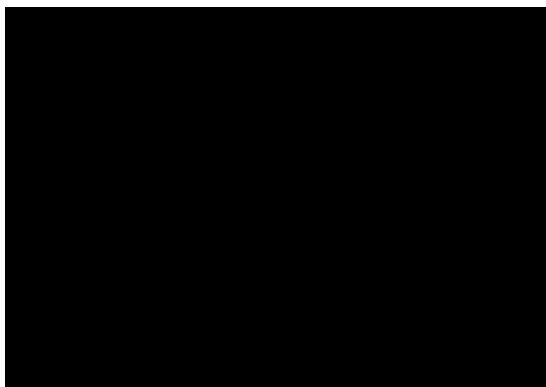
藤原 拝

\*\*\*\*\*

独立行政法人

医薬品医療機器総合機構 理事長

藤原 康弘



\*\*\*\*\*



## Re: 大麻はシスプラチニ耐性を誘発する

1 件のメッセージ

Masayuki Ikeda <[REDACTED]>

2024年7月20日 19:50

To: "藤原 康弘" <[REDACTED]>

藤原 康弘先生

先日は超御多忙中のなか、御丁寧にお返事ください、誠にありがとうございます。お忙しいことは百も承知で先生に直接お手紙申し上げたのには理由があります。

手紙の中で言及したセミノーマ（20代前半）の治療抵抗性の本質が、de novoのシスプラチニ耐性ではないのかと考えるきっかけになったのが、先生がlast authorになっていらっしゃる、縦隔原発セミノーマ再発の症例報告（GCT with somatic type malignancy）だったのです。

Iwasa S, Ando M, Ono M et al. Relapse with malignant transformation after chemotherapy for primary mediastinal seminoma: case report. Jpn J Clin Oncol 2009;39:456-459

そのIntroductionに  
malignant transformation from pure seminoma is extremely rare, and  
most cases have a past history of  
radiotherapy.とあり、自分の症例には放射線治療歴も化学療法歴もないのに、一体全体、何故BEP2コースが全く効かなかつたんだろうと悩んだ末に辿り着いたのが、「大麻依存がシスプラチニ耐性を誘導する」という、とんでもない結論だったのです。

先日のお手紙以降に気付いた論文（シスプラチニ耐性に関するドライバー変異の検討。RASとKITが候補に挙がっています。Nature Communications 2020年掲載なので既に御存知かもしれません）と共に、上記の懐かしい症例報告も添付します。

ご多忙の上に猛暑の中、くれぐれもご自愛ください。

---

池田正行

---

### 添付ファイル 2 件

#6\_Iwasa\_JJCO\_2009.pdf  
214K

#127\_Loveday.pdf  
980K